

100 世界遺産の旅 (85)

ガラパゴス諸島

ガラパゴス諸島と云えば、ダーウィンの進化論を思い浮かべる。難解な理論はさておき、簡単な例として、西島（サン・クリストバル島）と東島（イサベラ島）のゾウガメの体形は異なる。西島は、山が高く、降雨があり食料の草が豊富で、我々が良く知るゾウガメの体形である。一方、東島は、降雨が少なく、草は生えないのでサボテンが主食で、ゾウガメの首が長くなり、その首で甲羅を変形させる。

ガラパゴス諸島は、西の島が新しく、東へ行くほど古い島で、長い年月を経て、東の島々は、海底へ沈下して行く。丁度、ハワイ諸島と東西真逆である。



「ロンサム ジョージ」 ダーウィン研究所

ガラパゴス諸島は、エクアドル本土より西 900km の赤道直下で、4つの海流がぶつかり合い、多種の動物や植物が、運ばれてきた。西よりクロムウェル海流（深層水）、東より南赤道海流（暖流）、北よりパナマ海流（暖流）、南よりペルー海流（寒流）である。これら海流の交差点は、エルニーニョ、ラニーニャ現象が、現れる海域としても有名である。



ウミイグアナ、トルトゥーガ・ベイ、2018年2月

サンタ・クルス島の中心地プエルト・アヨラから徒歩で1時間の所に真白なパウダーサンドの浜

辺トルトゥーガ・ベイがある。唯一ナチュラリスト・ガイドの同行を必要としない浜辺で、ウミイグアナのコロニーがあり、何処でも遭遇できた。



昼寝のアシカ、プエルト・アヨラ港、2018年2月

到着した日は、まずもってクルージングの価格調査と予約であった。町中の代理店では価格が、まちまちで要領がつかめなかったのが、滞在ホテルが、提供しているUS\$110のランチ付きクルージングを予約した。クルージングは、2日後とし、翌日は、午前中にトルトゥーガ・ベイを散策し、昼食および昼寝の後にチャールズ・ダーウィン研究所を覗いた。そこでは多くのゾウガメやガラパゴス諸島特有の植物を観察することが出来た。



クルージング、ガラパゴス諸島、2018年2月

ガラパゴス諸島は、火山島であるが故、往々にしてゴツゴツした溶岩で覆われ、上陸しても歩行が難しいので、主にクルージングが、アクティビティの中心である。クルージングにしてもナチュラリスト・ガイドの同行が義務づけられている。目的地ビンソン島で、貸与されたシュノーケルとウェットスーツを身につけて海に飛び込んだ。

若者達は、それぞれ自力で泳ぐことが出来るが、私やアルゼンチンの年配女性は、ガイドが引っ張るウキにしがみついて、時折、海底を覗く程度である。凄まじきは、アシカの補食で、魚雷のように海中を泳ぎ回り、魚を追っているようだった。魚影も濃く、エキサイティングな遊泳の後、トロリングを楽しみながら帰航についた。